

体験活動参加型+講演会型(小学校)

学校名等	瑞穂市立中保育・教育センター
実施日時	令和3年7月15日(木)未満児。年少 15時~16時 16日(金)
会場	瑞穂市立中保育・教育センター
参加人数	15名ずつ
学習課題(分野)	「子どもとの関わりの大切さ」
運営者の願い	瑞穂市では幼稚園・保育所などで、小学校の大野先生のお話を聞く会が、年間によく位置付けられています。大野先生は西小学校の主幹教諭で、特別支援教育が専門です。 お話は小学校に入るまでにおきたいことが中心です。が、子育てで大事にしたいこと、困ったことを事前にアンケートしてそれにこたえる形でも行われていて、その話がとても好評です。



講師の大野清貴先生

学習の内容

<事前アンケート>

出された質問を5つの内容にまとめ資料として配られています。質問に応える形で講演が進んでいきます。聞きたくありませんね。

<学びの場面>★年長・年中児の保護者対象(講演の様子の一部)

1 就学までに身に付けさせるといふ力は何か。

【年長まで】

- ・あいさつや返事ができ、「ありがとう。」「ごめんなさい。」の言葉が言える。
- ・自分でできる事が嬉しいと思える。自分で考え、解決できることを喜ぶ。
- ・寝る時間と起きる時間をしっかり決めて生活する。
- ・話をしっかりと聞く、分からないときは分からないことを伝える。
- ・保育所であったことを話ができるようにする。

※「あいさつのプレゼント」という高学年作文
→「おはよう」と言える子は素敵!ほめてあげよう!
(当たり前と思わないで)

【年長】

- ・何か取り組むときは集中し、終わる時には気持ちが切り替えられる。
- ・お手伝いができる。
- ・文字に親しんだり、数に親しんだりする。
- ・体力をつける。(※登山が効果的)

※絵本「へんしんとンネル」
読み聞かせて楽しさを紹介。絵本は宝の山です。

気づくこと・わかること・できることが生きることの価値だと理解させていく

●そのほかの内容は

- 2 保育所と小学校の校区が違う。子どもにどんな声かけをすればよい?
- 3 新しいことへのチャレンジを嫌がる。
- 4 昼夜を問わず泣く、理由は言わない。
- 5 中間反抗期の子どもとの接し方・関わり方など
作文や絵本・新聞記事・PTA新聞等の事例を紹介されてわかりやすく説明されています。最後に。



◆大切なことは、

- ① 今は遊びが大事である。物事などを「知っている」から「(体験して)分かっている」に。
- ② 心・体・頭のバランスが重要である。
- ③ 聞く力、見る力、読む力、(書く力)のバランスのよい発達を。
- ④ 子ども自身が伸びようとする思いを大事にする。
- ⑤ 愛されていると感じられる環境を作ることが必要である。

<参加された方の感想>

- ・就学に向けてあいさつや子どもとの接し方などお話を聞いてよかった。
- ・普段なかなか忙しくゆっくり子どもの話を聞けなかったり、なにかをしながらの対応だったりすることが多かったのですが、これからは少しでも2人きりでしっかり向き合う時間を作っていきたいと思いました。
- ・子どもに身に付けさせたい力を分かりやすく示していただき、日々の成長の中で、活かしたいことばかりでした。

・新しいことにチャレンジすることを嫌がる子には無理強いない。
・子どもは失敗しながら学んでいくので、かわいそうだからと手を貸すことが良いのかを考える。
といった子どもの側に寄り添っての対応や見方のお話に納得です。学び多い学級になりました。

今困っていることをどう見て接すればよいのかといったニーズに合わせてのお話でした。取材して驚いたのは、参加者のメモを取る姿です。配付された資料とは別にノートにびっしりと書かれる人もいて、聞き洩らさないようにとの姿勢が素晴らしいです。

さらに前日には年少や未満児の保護者へのお話があり、どちらも参加された方が「とてもよかった。2日間も聞いてうれしかった。」と言われるほどでした。子育てに一生懸命です。知りたいのですね。